

教授法改善のためのメディア利用と授業の評価調査 —愛知淑徳大学「民俗学」においての試み—

谷 沢 明

はじめに

本稿は、愛知淑徳大学「民俗学」（平成7年度前期）における、教授法改善のためのメディア利用の概略とその授業評価調査の結果報告、及びフィールドワークにおけるビデオ活用を試みを紹介するものである。

民俗学は、2年生を対象とする学芸員課程の選択必須科目で、平成7年度前期は250人の履修登録があった。民俗学において効果的な教育を行うためには、フィールドワークの映像資料の提示が必要不可欠であるとの考えに基づき、本授業においては、ビデオ・スライドを積極的に活用するという観点から教授法改善の試みに取り組んだ。

参考までに、講義内容と、使用メディアと示すと〈表1〉のとおりである。

〈表1〉民俗学講義内容と使用メディア

No	講 義 内 容	ビデオ	スライド	OHP	ビデオタイトル
1	民俗学とは			○	
2	ムラの民俗	○	○	○	大磯の道祖神祭り 小田井の道祖神祭り
3	住まいと暮らし		○	○	
4	畑作と稲作	○	○	○	香取神宮御田植祭
5	農耕儀礼	○	○	○	滝沢の田遊び
6	年中行事	○	○	○	徳丸の田遊び
7	人生儀礼	○	○	○	藤守の田遊び
8	海の民		○	○	
9	山の民		○	○	
10	交易の習俗		○	○	
11	町の景観と暮らし	○		○	町の景観と暮らし
12	庚申信仰		○	○	
13	絵馬を見る		○	○	

*○印は使用。このほか毎回講義内容に沿った印刷物を配布した。

13回の授業において、7本のビデオを用いたが、うち6本は自ら撮影・編集した8ミリビデオを使用した。また11回目の授業においては、筆者が出演した放送大学ビデオ教材「日本人の生活と文化」の中の「町の景観と暮らし」を使用した。

250人という大人数を対象とする授業であるため、教室は公開講座などを行うホール（E

Cホール) が利用された。このホールは扇型に設計されており、プレゼンテーションの環境は、液晶プロジェクターで大型スクリーンに教材を映し出すことができるようになっている。使用可能な機器は、VHSビデオ・8ミリビデオ・レーザーディスク・OHCである。

次に、授業評価調査は、13回目の授業の最後に調査票（巻末資料参照）を配布して行った。250人の履修者のうち、238人（95.2%）の回答を回収した。調査票回収者の学科・学年別人数の内訳は〈表2〉のとおりである。なお本学の学芸員課程は、当初、図書館情報学科の学生を対象に開設された経緯があり、民俗学履修においては約6割がこの学科の学生が占める。

〈表2〉 調査票回収者学科・学年別人数

	2年生	4年生	計	学科別構成比
図書館情報学科	142	2	144	60.5
国文学科	45	0	45	18.9
コミュニケーション学科	43	1	44	18.5
英文学科	5	0	5	2.1
計	235	3	238	100.0

1. 授業の評価調査の結果

●概要

授業の評価調査は、授業全般にわたっての5段階評価を行うとともに、1～13回において最も興味深かった内容をそれぞれ記述し、興味深い授業を3つ選び出す形式で調査票を設計した。

調査票の集計は、10設問に対して学科ごとのクロス集計を行うとともに、学生の成績（民俗学）を属性の一つに加えて、やはりクロス集計を試みた。ちなみに学生のランクの指標として用いたのは3段階で、A（80点以上）は59人（24.8%）、B（70～79点）は153人（64.3%）、C（60～69点）は26人（10.9%）となっている。なおこの成績評価は、レポートの採点によるものである。

まずは10設問と、5段階評価の平均値を示すと〈表3〉のとおりである。

〈表3〉授業評価の設問と平均値

No	設問	平均値
1	講義内容は理解できた	4.08
2	興味深い内容であった	4.08
3	学習の動機付けとなった	3.66
4	講義の進め方は適切であった	4.10
5	配布資料は参考になった	4.64
6	「質問と回答」は参考になった	4.60
7	ビデオは効果があった	4.63
8	写真は効果があった	4.55
9	テキスト『家郷の訓』の選定は適切	3.49
10	評価方法（レポート）は適切	4.05

この表からビデオ・写真、および配布資料（「質問と回答」もプリントして配布資料とした）に対して高い評価が与えられているが、テキストの選定や学習の動機付けについては、相対的に評価は低くなっていることが明らかになる。

次いで、これら10設問の評価について、属性別特徴をみていきたい。ただし英文学科については母数が少ないため、記述の対象外とする。

●講義内容の理解

「講義内容は理解できた」の設問に対する回答結果は〈表4〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.20、国文学科が4.13、コミュニケーション学科が3.60となっており、コミュニケーション学科が他の2学科と比べて低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.12、Bランクが4.09、Cランクが4.00となっており、成績の良い学生ほど「講義内容は理解できた」と回答している。

〈表4〉設問1：講義内容は理解できた

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	60 25.3	141 59.5	32 13.5	4 1.7	0 0.0	237 100.0	4.08
学科・図情	43 29.9	88 61.1	12 8.3	1 0.7	0 0.0	144 100.0	4.20
国 文	10 22.2	32 71.1	2 4.4	1 2.2	0 0.0	45 99.9	4.13
コミュ	5 11.6	18 41.9	18 41.9	2 4.7	0 0.0	43 100.1	3.60

英 文	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	4.40
成績・A	16 27.1	35 59.3	7 11.9	1 1.7	0 0.0	59 100.0	4.12
B	41 27.0	86 56.6	22 14.5	3 2.0	0 0.0	152 100.1	4.09
C	3 11.5	20 76.9	3 11.5	0 0.0	0 0.0	26 99.9	4.00

* 凡例、図情：図書館情報学科、国文：国文学科、コミュ：コミュニケーション学科

●講義の興味深さ

「(講義は) 興味深い内容であった」の設問に対する回答結果は〈表5〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.14、国文学科が4.29、コミュニケーション学科が3.65となっており、講義内容の理解の質問項目と同様にコミュニケーション学科が他の2学科と比べて低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.29、Bランクが4.03、Cランクが3.88となっており、成績の良い学生ほど「興味深い内容であった」と回答している。

〈表5〉設問2：興味深い内容であった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	61 25.7	139 58.6	32 13.5	5 2.1	0 0.0	237 99.9	4.08
学科・図情	41 28.5	83 57.6	19 13.2	1 0.7	0 0.0	144 100.0	4.14
国 文	15 33.3	28 62.2	2 4.4	0 0.0	0 0.0	45 99.9	4.29
コミュ	3 6.9	26 60.5	10 23.3	4 9.3	0 0.0	43 100.0	3.65
英 文	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	4.20
成績・A	20 33.9	36 61.0	3 5.1	0 0.0	0 0.0	59 100.0	4.29
B	38 25.0	85 55.9	25 16.4	4 2.6	0 0.0	152 99.9	4.03
C	3 11.5	18 69.2	4 15.4	1 3.8	0 0.0	26 99.9	3.88

●学習の動機付け

「(講義は) 学習の動機付けとなった」の設問に対する回答結果は〈表6〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が3.72、国文学科が3.71、コミュニケーション学科が3.33となっており、講義内容の理解・興味についての質問項目と同様にコミュニケーション学科が他の2学科と比べて低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが3.79、Bランクが3.58、Cランクが3.69となっており、ランクによる大きな差異は認められない。

〈表6〉 設問3：学習の動機付けとなった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	26 11.0	112 47.5	85 36.0	13 5.5	0 0.0	236 100.0	3.64
学科・図情	18 12.7	71 50.0	48 33.8	5 3.5	0 0.0	142 100.0	3.72
国 文	6 13.3	22 48.9	15 33.3	2 4.4	0 0.0	45 99.9	3.71
コミュ	2 4.7	16 37.2	19 44.2	6 14.0	0 0.0	43 100.1	3.33
英 文	0 0.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	3.60
成績・A	8 13.8	31 53.4	18 31.0	1 1.7	0 0.0	58 99.9	3.79
B	16 10.6	67 44.4	56 37.1	12 7.9	0 0.0	151 100.0	3.58
C	2 7.7	14 53.8	10 38.5	0 0.0	0 0.0	26 100.0	3.69

●講義の進め方

「講義の進め方は適切であった」の設問に対する回答結果は〈表7〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.14、国文学科が4.07、コミュニケーション学科が3.95となっており、やはりコミュニケーション学科が低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.07、Bランクが4.11、Cランクが4.12となっており、ランクによる大きな差異は認められない。

〈表7〉設問4：講義の進め方は適切であった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	73 30.9	120 50.8	37 15.7	6 2.5	0 0.0	236 99.9	4.10
学科・図情	48 33.6	69 48.3	24 16.8	2 1.4	0 0.0	143 100.1	4.14
国 文	13 28.9	24 53.3	6 13.3	2 4.4	0 0.0	45 99.9	4.07
コミュ	9 20.9	25 58.1	7 16.3	2 4.7	0 0.0	43 100.0	3.95
英 文	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	4.60
成績・A	17 28.8	31 52.5	9 15.3	2 3.4	0 0.0	59 100.0	4.07
B	48 31.8	76 50.3	23 15.2	4 2.6	0 0.0	151 99.9	4.11
C	8 30.8	13 50.0	5 19.2	0 0.0	0 0.0	26 100.0	4.12

●配布資料

民俗学の授業はテキストを用いなかったため、毎回、講義内容を記したプリントを配布した。「配布資料は参考になった」の設問に対する回答結果は〈表8〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.71、国文学科が4.56、コミュニケーション学科が4.49となっており、図書館情報学科が他の2学科に比べてやや高い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.66、Bランクが4.61、Cランクが4.77となっており、ランクによる大きな差異は認められない。

〈表8〉設問5：配布資料は参考になった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	160 67.8	69 29.2	5 2.1	2 0.8	0 0.0	236 99.9	4.64
学科・図情	104 72.7	36 25.2	3 2.1	0 0.0	0 0.0	143 100.0	4.71
国 文	28 62.2	15 33.3	1 2.2	1 2.2	0 0.0	45 99.9	4.56

コミュ	24 55.8	17 39.5	1 2.3	1 2.3	0 0.0	43 99.9	4.49
英 文	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	4.80
成績・A	40 67.8	18 30.5	1 1.7	0 0.0	0 0.0	59 100.0	4.66
B	100 66.2	45 29.8	4 2.6	2 1.3	0 0.0	151 99.9	4.61
C	20 76.9	6 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26 100.0	4.77

●「質問と回答」

民俗学の授業においては、出欠の確認のためB 6のカードを配布し、興味を持ったことや疑問に思ったことを学生に記入させた。このカードには質問も多く寄せられ、次回の授業でできる限りこれに答えた。(毎回20～30分この時間が必要となった)。そしてこの回答もプリントにして学生に配布した。

『「質問と回答」は参考になった』の設問に対する回答結果は〈表9〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.64、国文学科が4.60、コミュニケーション学科が4.44となっており、配布資料の質問項目と同様にコミュニケーション学科が他の学科と比べて低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.69、Bランクが4.58、Cランクが4.54となっており、成績の良い学生ほど『「質問と回答」は参考になった』と回答している。

〈表9〉設問6：「質問と回答」は参考になった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	158 66.9	63 26.7	14 5.9	1 0.4	0 0.0	236 99.9	4.60
学科・図情	100 69.4	36 25.0	8 5.6	0 0.0	0 0.0	144 100.0	4.64
国 文	30 66.7	13 28.9	1 2.2	1 2.2	0 0.0	45 100.0	4.60
コミュ	24 55.8	14 32.6	5 11.6	0 0.0	0 0.0	43 100.0	4.44
英 文	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	5.00
成績・A	43 74.1	12 20.7	3 5.2	0 0.0	0 0.0	58 100.0	4.69

B	101 66.4	39 25.7	11 7.2	1 0.7	0 0.0	152 100.0	4.58
C	14 53.8	12 46.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26 100.0	4.54

●ビデオの効果

13回の授業で7本のビデオを用いた。うち6本が自ら撮影したもので、10～15分に編集して授業の中ほどで上映した。この編集したビデオには、ナレーションや効果音は一切入っておらず、必要に応じて解説を加えていった。他の1本は放送大学の教材である。

「ビデオは効果があった」の設問に対する回答結果は〈表10〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.64、国文学科が4.56、コミュニケーション学科が4.47となっており、図書館情報学科が他の2学科と比べて高い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.78、Bランクが4.57、Cランクが4.65となっており、成績上位のAランクの学生は他の2ランクの学生に比べて高い数値を示している。

〈表10〉 設問7：ビデオは効果があった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	158 66.7	70 29.5	9 3.8	0 0.0	0 0.0	237 100.0	4.63
学科・図情	103 71.5	37 25.7	4 2.8	0 0.0	0 0.0	144 100.0	4.69
国 文	27 60.0	16 35.6	2 4.4	0 0.0	0 0.0	45 100.0	4.56
コミュ	23 53.5	17 39.5	3 7.0	0 0.0	0 0.0	43 100.0	4.47
英 文	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	5.00
成績・A	46 78.0	13 22.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	59 100.0	4.78
B	95 62.5	48 31.6	9 5.9	0 0.0	0 0.0	152 100.0	4.57
C	17 65.4	9 34.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26 100.0	4.65

●写真の効果

民俗学の授業は、写真を多用する形で進めた（毎回、20～30枚）。「写真は効果があった」の設問に対する回答結果は〈表11〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報

学科が4.62、国文学科が4.53、コミュニケーション学科が4.33となっており、コミュニケーション学科が他の2学科と比べて低い数値を示している。写真の効果についての回答結果には、ビデオの質問項目と同様な学科別の傾向がみられる。また成績別内訳は、Aランクが4.67、Bランクが4.52、Cランクが4.46となっており、成績の良い学生ほど「写真は効果があった」と回答している。

〈表11〉 設問8：写真は効果があった

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	143 61.1	77 32.9	14 6.0	0 0.0	0 0.0	234 100.0	4.55
学科・図情	93 66.0	42 29.8	6 4.3	0 0.0	0 0.0	141 100.1	4.62
国 文	28 62.2	13 28.9	4 8.9	0 0.0	0 0.0	45 100.0	4.53
コミュ	18 41.9	21 48.8	4 9.3	0 0.0	0 0.0	43 100.0	4.33
英 文	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	4.80
成績・A	41 70.7	15 25.9	2 3.4	0 0.0	0 0.0	58 100.0	4.67
B	88 58.7	52 34.7	10 6.7	0 0.0	0 0.0	150 100.1	4.52
C	14 53.8	10 38.5	2 7.7	0 0.0	0 0.0	26 100.0	4.46

●テキストの選定

学期はじめに「テキスト」として指定し、学生に購入させたのは宮本常一著『家郷の訓』（岩波文庫）である。しかしこれは授業中には使用せず、レポート作成の必要文献として用いた。いわゆる授業内容に沿ったテキストは今回未使用であった。

「テキスト『家郷の訓』の選定は適切」の設問に対する回答結果は〈表12〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が3.51、国文学科が3.38、コミュニケーション学科が3.58となっており、国文学科が他の2学科と比べて低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが3.64、Bランクが3.43、Cランクが3.54となっており、ランクによる大きな差異は認められない。

〈表12〉設問9：テキスト『家郷の訓』の選定は適切

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	34 14.4	83 35.2	88 37.3	27 11.4	4 1.7	236 100.0	3.49
学科・図情	22 15.4	49 34.3	53 37.1	18 12.6	1 0.7	143 100.1	3.51
国 文	4 8.9	18 40.0	16 35.6	5 11.1	2 4.4	45 100.0	3.38
コミュ	7 16.3	15 34.9	17 39.5	4 9.3	0 0.0	43 100.0	3.58
英 文	1 20.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	5 100.0	3.20
成績・A	8 13.8	26 44.8	21 36.2	1 1.7	2 3.4	58 99.9	3.64
B	21 13.8	51 33.6	53 34.9	26 17.1	1 0.7	152 100.1	3.43
C	5 19.2	6 23.1	14 53.8	0 0.0	1 3.8	26 99.9	3.54

●成績評価について

成績評価はレポートで行った。宮本常一著『家郷の訓』を読み、テーマを設定して1600字程度に論述することを課題とした。「評価方法（レポート）は適切」の設問に対する回答結果は〈表13〉のとおりである。平均値の学科別内訳は、図書館情報学科が4.06、国文学科が3.98、コミュニケーション学科が4.09となっており、国文学科が他の2学科と比べてやや低い数値を示している。また成績別内訳は、Aランクが4.17、Bランクが3.99、Cランクが4.08となっており、ランクによる大きな差異は認められない。

〈表13〉設問10：評価方法（レポート）は適切

	そう思う	やや思う	どちらでもない	さほど思わない	思わない	有効回答	平均値
全 体	85 36.0	84 35.6	61 25.8	5 2.1	1 0.4	236 99.9	4.05
学科・図情	53 37.1	51 35.7	34 23.8	4 2.8	1 0.7	143 100.1	4.06
国 文	15 33.3	15 33.3	14 31.1	1 2.2	0 0.0	45 99.9	3.98

コミュ	16 37.2	15 34.9	12 27.9	0 0.0	0 0.0	43 100.0	4.09
英 文	1 20.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	4.00
成績・A	21 36.2	26 44.8	11 19.0	0 0.0	0 0.0	58 100.0	4.17
B	56 36.8	46 30.3	44 28.9	5 3.3	1 0.7	152 100.0	3.99
C	8 30.8	12 46.2	6 23.1	0 0.0	0 0.0	26 100.1	4.08

2. 興味深かった講義

「興味深かった講義を3つ選んで、興味深い順に順位を記して下さい」の設問に対する回答結果は〈表14～16〉のとおりである。

最も興味深かった講義として1、2位にあげられたのは、6回目の「年中行事」、7回目の「人生儀礼」である。また13回目の「絵馬を見る」、3回目の「住まいと暮らし」、12回目の「庚申信仰」についても興味が寄せられていることが判明する。

「年中行事」と「人生儀礼」は、冒頭（〈表1〉参照）にも記したよう、国重要無形民俗文化財に指定された「徳丸の田遊び」「藤守の田遊び」の現地調査に基づいたビデオを使用した授業を行った。「絵馬を見る」においては、各地の寺社に奉納された数々の絵馬のスライドを行うとともに、実物のコレクションもいくつか教室で提示した。また「住まいと暮らし」、「庚申信仰」も日本各地の民家や庚申塔のスライドを多用した授業で、資料提示のインパクトが、この評価に結び付いたのではないかと考えられる。

これら以外のものとして2番目に興味深かった講義として上位に評価されているものに8回目の「海の民」がある。これも三重県志摩半島の現地調査に基づいて撮影した海女のスライドを多用した授業である。

逆に、興味深い講義としてあげられなかったものは、1回目の「民俗学とは」である。これは、ビデオもスライドも用いずに行った唯一の授業であった。

授業の興味深さは、一つは学生それぞれが抱いている関心によって決まり、もう一方には、いかに興味深く授業で内容が伝えられるかの要素も含まれており、本来はこの両面から評価を行うべきものであるが、この調査においては以上述べた結果が現れている。

〈表14〉設問：最も興味深かった講義は？

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	有 効
全 体	2	5	26	5	15	40	38	18	5	3	14	26	28	225
学科・図情	1	3	14	4	9	20	25	12	2	2	12	18	14	136
国 文	0	1	4	0	1	9	6	3	1	0	1	8	7	41
コ ミ ュ	1	1	8	1	3	11	4	3	2	1	1	0	7	43
英 文	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	5

* 1回～13回は講義の順番（内容については〈表1〉参照）。

〈表15〉設問：2番目に興味深かった講義は？

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	有 効
全 体	2	8	25	5	16	22	34	27	7	11	19	18	31	225
学科・図情	1	4	15	4	9	17	18	10	3	5	14	16	20	136
国 文	0	1	3	0	3	2	5	10	3	4	2	1	7	41
コ ミ ュ	1	2	7	1	4	3	10	6	1	1	3	1	3	43
英 文	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	5

* 1回～13回は講義の順番（内容については〈表1〉参照）。

〈表16〉設問：3番目に興味深かった講義は？

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	有 効
全 体	6	8	27	7	14	21	24	30	9	6	15	21	35	223
学科・図情	3	3	14	5	11	16	14	14	6	3	12	14	19	134
国 文	2	4	10	0	1	2	6	4	1	0	2	3	6	41
コ ミ ュ	1	1	3	2	2	2	4	10	1	2	1	4	10	43
英 文	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	5

* 1回～13回は講義の順番（内容については〈表1〉参照）。

3. フィールドワークにおけるビデオ活用の試み

以上の評価調査結果からも分かるように、民俗学をはじめとするフィールドワークをと
もなう研究分野においては、授業で学生にその成果を伝達する有効な方法として、ビデオ
の活用があげられる。市販等のビデオのみならず、教員自らが撮影した映像等を利用した
授業は教育効果をあげ、その教材製作は今後、ますます重要視されるものと思われる。

一方、学生をフィールドワークに参加させ、そこで学習させる機会も大学教育の中で生
ずる。ここでは、調査経験が皆無の学生をいかに現地で教育していくか、が問題となる。
また調査経験の浅い学生が得たデータ再確認の作業も不可欠である。ビデオを活用するこ

とで、多少なりともこの問題を解決することができないかと思い、その試みをおこなった事例を最後に簡単に紹介したい。

ビデオを活用したフィールドワークは、平成7年9月1日～6日に、広島県比婆郡東城町で実施した。参加学生は、調査未経験の民俗学履修学生の有志5名、および調査経験のある学生1名であった。調査内容は有形民俗資料の調査と記録で、主として、鍛冶屋の諸道具の測図および用途についての聞き取り調査を行った。

調査地においては、調査風景および調査の整理風景を極力ビデオカメラに納めることを心がけるとともに、調査活動そのものにもビデオの利点を最大限に生かそうと試みた。その結果、次のことがビデオ活用の効果として明らかになった。

① 確実な調査データ作成に効果を発揮する。

ビデオの利用により、資料やそれにまつわる説明を記録し、その日のうちに聞き取り調査の内容を確認することができる。現地での説明を短時間のうちにメモすることは、調査経験の浅い学生にとっては、困難をきわめる（しかしビデオにたよらず、できるだけこの試みは現地で実践させた）。また時として本人の思い違いなども生じることがある。ビデオの利用により、これらのことがその日のうちに確認・訂正できるのである。宿舎に帰ってからまとめの作業を行うが、ビデオをいったん停止させたり、繰り返し視聴することがまとめの作業として重要である。

② 調査のやり方の反省材料が得られる。

聞き取り調査において現地の方と接する学生は無我夢中で、そのときの状況は、本人もほとんど覚えていないといっても過言でない。ビデオを見ることにより調査手法の欠点を本人が自覚することができる。またビデオにより他人の優れた方法をタイムリーに学ぶことができる。調査中は、他人の調査方法をのんびり見ているゆとりなどないので、これは有効な学習機会となる。また、調査中たとえやり方がまずくとも、相当なことがない限り注意はしない（現地の人を前にできない）。その指導をいつおこなうかが問題である。宿舎に帰って、その日のビデオを見ながらコメントすると学生も素直に聞き入れ、有効である。

③ 映像をとおして共通認識が得られる。

一般に調査は分担作業となり、他人がやっていることが見えにくい。本来は、全体像を把握した中で、人それぞれが分担を受け持っていくのが理想である。ところが全体像を把握することは初心者のみならず、相当手慣れた人でも難しい。その日の調査内容を互いに映像を見ることにより共通に理解し、認識を深めていくことにビデオは大いに役立つ。調査は、調査地の状況（資料の保有状況、対応して下さる方の性格、調査チームの質）により、日々構築していく必要がある。いいかえれば、調査チームが「調査」を創りあげていくもの、ともいえる。チームが調査の意義をハダで感じ取り、目的に向かってそれぞれが受け持ち分の役割を十分に認識して自発的に動くことが、優れた調査を創りあげるための条件になる。その共通認識と共通理解を生み出す上でビデオが効果を発揮する。

今回の試みをもとに、授業での活用が可能となる民俗調査の事例として、〈表17〉の内容のビデオ（約10分）を編集することにした。なお、このビデオはさっそく平成8年度の民

俗学の第1回目授業「民俗学とは」（平成7年度は具体的な提示資料がなくて困っていた）で活用することとなった。

〈表17〉 東城町フィールドワークの記録ビデオ

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">①調査地の概観②調査対象物の下見③1日目のミーティング（明日の作業内容および方法について確認）④調査資料の選定⑤資料を前にはじめての測図を試みる学生⑥用途についての聞き取り調査（書く方向を定めるためにも必要）⑦2日目のミーティング（清書の練習）⑧分類のための聞き取り調査（小物を中心にして）⑨写真撮影の訓練⑩3日目のミーティング（ビデオを活用した調査データの確認）⑪庭先に資料を広げて、最終確認のための聞き取り調査 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

まとめ

以上、愛知淑徳大学の民俗学の授業における教授法改善のためのメディア利用の試みと、その授業評価により、ビデオ・写真を多用した授業は効果的であるとの結果が明らかになった。またビデオ・写真を多用した授業は上位の成績の学生ほど高い評価を与えていることも判明した。

また、映像のみならず、毎回作成した配布資料や「質問と回答」のプリントも参考になったとの評価があった。「質問と回答」についても、上位の成績の学生ほど高い評価を与えていることが判明した。この「質問と回答」は、身近な事例が中心となっており、生活の中の事象を民俗学的にいかにとらえたら良いかを示したものである。

反面、評価の低いものはテキストの選定と学習の動機付けであった。授業内容に沿っていない文献を「テキスト」として指定したため、このような結果が現れたものと考えられる。また学習の動機付けについても、一つには授業内容に沿ったテキストがなかったため、評価が低かったのではないかと考えられる。

その改善策として、平成8年度からは自作教材「愛知淑徳大学講義テキスト民俗学」を作成した（A4サイズ、64ページ、350部印刷、1冊400円で販売）。このテキストは授業内容に沿った構成で、この評価調査結果を反映させて平成7年度に寄せられた興味深い「質問」をコラムとして掲載することにした。

授業で用いるビデオは、より多様な内容を今後も継続して蓄積していくことが課題であり、研究活動と並行して、撮影機会の増大を図っている。一方、フィールドワークにおけるビデオ活用も推進し、今後は、学生の撮った映像なども順次授業に活用していきたいと考えている。

〈資料〉調査票

平成7年度前期・民俗学について

学科 学年 クラス 学籍番号 氏名

I. 下記の要領に従ってご記入下さい。

[出欠] ○印：出席、△印：公休、無印：欠席 出席総数 回

[もっとも興味深かった話] 出席の方は必ず1行コメントを書いて下さい。

[※] 興味深かった講義を3つ選んで、興味深い順に①、②、③と記して下さい。

NO	表 題	出欠	もっとも興味深かった話	※
1	民俗学とは			
2	ムラの民俗			
3	住まいと暮らし			
4	畑作と稲作			
5	農耕儀礼			
6	年中行事			
7	人生儀礼			
8	海の民			
9	山の民			
10	交易の習俗			
11	町の景観と暮らし			
12	庚申信仰			
13	絵馬を見る			

II. 講義を振り返って、あてはまる番号に○をつけて下さい（成績には関係しません）。

	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	さほど思わない	そう思わない
1. 講義内容は理解できた	5	4	3	2	1
2. 興味深い内容であった	5	4	3	2	1
3. 学習の動機付けとなった	5	4	3	2	1
4. 講義の進め方は適切であった	5	4	3	2	1
5. 配布資料は参考になった	5	4	3	2	1
6. 「質問と回答」は参考になった.....	5	4	3	2	1
7. ビデオは効果があった	5	4	3	2	1
8. 写真は効果があった	5	4	3	2	1
9. テキスト『家郷の訓』の選定は適切 ...	5	4	3	2	1
10. 評価方法（レポート問題）は適切	5	4	3	2	1

III. その他、お気づきの点をご自由にお書き下さい。
